

インフォメーション

問い合せ・申込み:仙台市市民活動サポートセンター

TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

サポセンスタッフから



サポセン20周年 「超!マチノワ」ご来場ありがとうございました!

6月30日(日)に開催したサポセン開館20周年イベント「超!マチノワ」が無事終了いたしました。 のべ520人以上の方々にお越しいただきました。市民活動シアターで実施した超!交流会では、既 存のつながりを超え、新たな出会いやつながりが生まれました。

「マチノワ」という言葉は、「まちに暮らす多様な主体の力を活かし合える、人と人、人とまちのゆるやかなつながり」を意味する造語です。超!マチノワで生まれたまちづくりのアイデアの種が、分野や地域を超えて芽吹き、未来に向けたアクションとして、まちを豊かに育むことを願います。

サポセンはこれからも市民のまちへの思いを形にする支援を行うとともに、多くの支援機関等とも連携しながら、「マチノワ」を育む場として機能していきたいと思います。この度はご参加ご協力いただき、誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(センター長 太田) **条企画の報告はサポセンブログをご覧ください**



団体の魅力が伝わるキャッチコピーづくり講座

- 日 時:8月24日(土)13:00~16:00
- 会 場:仙台市市民活動サポートセンター 4階 研修室5
- 講 師:小さなNPOを応援するグラフィックデザイナー 林田全弘さん
- 内 容:文才、経験、いっさい要りません。あなたの団体が既に持っている「いいところ」を、ちょっと立ち止まって洗い出し、簡単な言葉にまとめます。全国で大評判の講座がついに仙台で初開催!
- 対 象:「伝えたいことがたくさんあって絞りきれない」「何をやっている団体か わからない、とよく言われる…」そんなお悩みを持つ市民活動団体。

参加費:無料

定 員:20団体(各団体2名まで参加可・先着順)

同日開催 寄付チラシづくりのコツ

- 日 時:8月24日(土)17:00~19:00
- 会 場:仙台市市民活動サポートセンター 地下1階 市民活動シアター
- 講師:小さなNPOを応援するグラフィックデザイナー 林田全弘さん
- 内 容:寄付や募金を呼びかける
- チラシづくりのコツを学ぶ講座です。 対 象:寄付や募金集めを考えている市民活動団体
- 参加費:無料

定 員:50人(先着順)



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日 8月14日(水)、28日(水)

開館時間 月曜日~土曜日 9:00-22:00 日曜日・祝日 9:00-18:00

日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目 1-3 TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分 [HP]https://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日~2020年3月31日]

市民ライターが、仙台の市民活動団体や ワクワクビトを取材しています!

▶市民ライタ<u>ー</u>

http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。▶ばれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート] サポセンホームページからアクセス いただくか、携帯電話等で2次元パーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター

発行日 2019年8月1日

編集 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

デザイン PEACE Inc.

集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 鎌田みずほ 水原のぞみ

発行部数 3000部

配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2019 No.240

"ぱれっと"には、仙台市市民活動サポートセンター (サポセン) にいろいろな人が集まり、 それぞれの色 (個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



自分の違和感を捉え、 新たな挑戦へと動き出す

仙台市職員の下村瑞希さんは、心理職の相談員として、 日々引きこもりに悩む人やその家族と向き合っていま す。引きこもりの人に、多様な生き方を選択できるこ とを知ってもらえる機会を、新たな出会いや経験を通 じて提供しようと模索中です。

これまで、不登校や引きこもりに悩む人を、学校や職場に戻すような支援をしてきました。再び引きこもってしまう人を目の当たりにし、「対症療法的な関わりになってしまっていないか」と一人違和感を抱えるように。根本的解決のヒントを得るきっかけになったのは、2016年、行政職員有志が普段の業務の枠を超え「仙台をより良くしよう」と学び合うグループ「公務員タスクフォース」の一員になったことでした。都市経営について学んだり、仲間と自分の問題意識について意見交換したりすることで視野が広がりました。

一人ひとりが自分に合った生き方を選ぶために、自分 や社会がどうあればいいのか。今まさに、思いを力タ チにしようとしています。

取材・文 鏑木祐人

公務員タスクフォース(公務員TF)

Facebook @公務員タスクフォース

空き地や公共空間を利活用し、まち全体の魅力アップにつなげることを目的とした民間主導による「せんだいリノベーションまちづくりの実行委員会」の一部会として、2016年11月に発足。公務員が当事者意識をもって行政としてやるべきことを自発的に考え、都市経営戦略の実行を目的に活動しています。市職員を含め公務員約30人が所属し、月1回程度、課題図書などを題材に意見交換をしています。下村さんは、公務員TFの補助を受けて、「都市経営プロフェッショナルスクール」に参加。社会全体を俯瞰しながら、各人が抱く身近な問題解決のための学び合いをしています。

特 集 変わらずそこに在り続けるために 進化する ― 春日神社例大祭 ―

レ突 ポ撃

囲碁で越える、世代の壁

地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

変わらずそこに在り続けるために 進化する — 春日神社例大祭 —

仙台市青葉区春日町にある春日神社では、年1回、戦後から代々続く「春日神社例大祭」という祭りを町内会の人たちと実施して います。商店街の縮小や人口減少など時代の変化とともに、「ふるさと」を象徴する地域行事継続が難しくなっている今、地域の外 から担い手を巻き込むことで進化しつづける春日町の取組みを紹介します。

町内外の人たちと 春日町を活性化させたい

子どもたちに 地元の祭りを残したい 大好きな春日町を 盛り上げたい

お互いの強みを活かし 祭りを盛り上げたい



春日神社 宮司 みやざきたくふみ

宫崎拓史动



春日町 町内会 会長 ほりえよしひこ

堀江良彦まれ



会計 おおのよしのぶ 大野佳伸站



なごみサロン TRICK AND TREAT 主宰 おおさかゆうこ 大坂裕子まん



THE6 ディレクター ものう かずしげ 桃生和成まれ

地元住民の交流の場、例大祭

春日神社例大祭(以下、例大祭)は毎年6月に青葉区春日町で行わ れている神脈行事です。宮司が祝詞を読み、地域の子どもたちが台 車で御神輿を引きます。引くのは約80人の子どもたち。春日神社を出 発した御神輿は道中、屋台でもらった飲み物やおやつで休憩を挟みな がら国分町3丁目を経由して、町内を一周します。春日神社前の道路 は歩行者天国となり、焼き鳥や射的の他にジャムや焼き菓子を販売す る屋台などが並び、来た人を楽しませます。

春日神社宮司の宮崎拓史さんは「町内の人たちにとっては、例大 祭が老若男女が集い、コミュニケーションを交わす良い機会にもなっ ています」と話します。運営の中心を担うのは、地元の商店を営む人 たちによって組織された奉賛会です。更に春日町に拠点を構える、な ごみサロンTRICK AND TREAT(以下、トリトリ)主宰の大坂裕子さ ん、THE6ディレクターの桃生和成さんもそれぞれが企画協力、屋台 出店で参加しています。 トリトリは 2011 年、子連れの母親をはじめ誰 でも気軽に音楽やヨガなどの講座を楽しめる憩いの場を目指してつく られたサロンです。THE6はオフィスとアパート、イベントスペースが一 体となったシェア型複合施設です。2016年から春日町で運営してい

祭りに何か新しいアイデアが欲しいと思っていた。そんなとき大坂さ ん、桃生さんとの出会いはまさに渡りに船でした」と声を弾ませます。

縮小していく祭りに新たな風

祭りが始まった戦後当初から、御神輿の担ぎ手は中学生以上の 大人が主でした。屋台は町内のお店や住民たちが出店し、まるで祭 りに来た人が御神輿を迎えるように賑わう様子が広がっていました。 しかし区画整理によりマンションや駐車場ができ始め、商店街は少し ずつ縮小。徐々に祭りの担い手も減少していきました。加えて少子 高齢化により子どもの数も減っていきました。春日町町内会会長堀 江良彦さんは「子どもたちが大人になった時、幼少期の楽しかった思 い出に地元の祭りがあってほしい」と継続への願いを込めます。

一方で大坂さんは、トリトリでの活動を通じて春日町の人たちと交流 を深めていく中で、「春日町は人も親切で親しみやすいまち。例大祭 も何度か見に来ていて、以前からずっと参加したかった」との思いを抱 いていました。人づてにその思いを知った大野さんは、大坂さんへ現 状を相談。「もっと多くの人に関わってもらいたい」と大坂さんは早速

ます。春日町町内会の大野佳伸さんは「年々規模が小さくなっていく



すべて町内会といろんな方のご協力のおかげ | と目を細めます。

桃生さんは「出店を機に地域の人たちにTHE6を知ってもらうことにもつながった」 と話します。宮崎さんは「新しく春日町に関わってくれた人が "春日町を盛り上げてい こう"と協力してくれたことがありがたい。地元の人たちと、新たに加わった力を借り て春日町の活性化を目指したい と未来を見据えます。 (取材・文 鎌田みずほ)

周囲に呼びかけました。桃生さんも呼びかけに答えたうちの1人です。桃生さんは

「THE6が拠点を構える春日町が盛り上がることでエリア全体の価値があがるし、

参加することでTHE6に出入りしているクリエイターを知っていただく場となるかもし

れない」と、『春日町ちいさなマーケット』を企画。THE6の入居者へ出店の声掛け

をしました。大坂さんもまた、知人と共にゴスペルを披露したり、出店している屋台を

手伝ったりと力を発揮しました。宮崎さんは「焼き鳥や水ヨーヨーなど、昔ながらの

屋台に加えタピオカジュースやパン、珈琲など、徐々に時代に合わせた屋台が増

え、より若い層のお客さんにも例大祭を身近に感じてもらえるようになった。これも

- 春日神社
- 仙台市青葉区春日町 8-3 TEL 022-765-1388
- THE6

仙台市青葉区春日町 9-15 3F TEL 022-395-4835

● なごみサロン TRICK AND TREAT

仙台市青葉区春日町 4-28 SUUT401 号 ブログ http://ameblo.jp/muck0610





活動に役立つ書籍をご紹介します

お役立ち本

「社会を変える」のはじめかた

著者:横尾 俊成 発行所:(株)産学社

本書は、政治とNPOの政策提言について考えさせ てくれます。政治と言うと、国政レベルの話や政治 「思想」と思われがちですが、日常生活の周りにも、 いっぱい政治マターは存在します。NPOの究極の活

動は政治との「協働」とも 考えさせられます。そんな 時、「私たちは政治に無 関心で良いのか」と、多彩 な事例で問いかけます。 問題発見にマーケティン グの手法を使い、一人ひ とりのアイデアを大切に するスタンスも好ましい一 冊です。





活動を始める一歩を応援します

コトハジメ

子どもの芸術活動をサポート 学生ボランティアスタッフ募集中!

ミューズの夢は、心身にハンディを持つ子どもに、音楽や アートなど芸術に触れる機会をつくり、楽しみや生きがいを 一緒に見つけていく教室を運営しています。子どもたちと レッスンを楽しみながら、サポートをしてくれるスタッフを募集 しています。内容は、グループレッスンのピアノ伴奏をする ピアノ担当、レッスン中に子どもたちのお世話をする補助担 当です。

問い合せ・申込み:NPO法人ミューズの夢 事務局 〒980-0821 仙台市青葉区春日町 7-19 ベルトラックス 春日町ビル 6 階

TEL/FAX 022-267-9540 Mail info@musenoyume.jp HP http://musenoyume.jp





サポセンスタッフ 宮崎 真央の突撃レポート!

取材団体名 / 碁ランティア

囲碁で越える、世代の壁





▲児童館での囲碁体験の様子

「黒い石でお花さんの形を作ると、この白い石がとれます」。碁 石の取り方を植物や動物の形に例え説明するのは、碁ランティア 代表の菊川悟さんです。碁ランティアは、若い世代への囲碁の普 及を目的に活動する市民活動団体です。スタッフは菊川さんの 他、大学生や若い社会人が中心。市内7か所の児童館で囲碁を教 えるほか、地域で開催されるイベント等へブースを出展し、市民 に囲碁の魅力を伝えます。活動では、囲碁のルールを教えるだけ ではなく、囲碁の歴史に関するクイズを出すなど、親しみやすい 工夫をしています。

碁ランティアは、2000年前後に起きた囲碁ブームをきっかけ に囲碁をやってみたいという大学生の声に応える形で立ち上が りました。「趣味としてだけでなく、地域や世代間の交流ツールと しても囲碁の認知を広めたい」と菊川さんは語ります。活動を継 続することで、児童館での囲碁教室やシルバーセンターの囲碁将 棋イベント、少年院からも出張依頼を受けるようになりました。

菊川さんから「限られた碁盤の上でも十人十色の打ち方が楽し めます」と聞き、囲碁の奥の深さを感じました。碁ランティアは、 仙台で囲碁に触れられる機会を提供し、魅力を伝え続けます。